

令和 6 年 5 月 11 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00310

研究課題名(和文) 『日本書紀』の注釈的研究

研究課題名(英文) An Annotative Study of the "Nihon-shoki"

研究代表者

金沢 英之 (Kanazawa, Hideyuki)

北海道大学・文学研究院・教授

研究者番号：00302828

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、上代文学・比較文学・歴史学を専門とする研究者の協働により、最新の学術的成果を踏まえた『日本書紀』の新たな注釈の作成と刊行を目的としたものである。このため、本文テキストの整理、注釈及び現代語訳原稿の作成と検討などの作業を進め、全3巻刊行予定のうち、本研究期間内に上巻を完成・刊行した。また、注釈作成過程で得られた知見をもとに、各研究分担者および研究代表者による国内外の学会等での研究発表、論文の公開を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

古代国家の起源と歴史を語る史書として720年に成った『日本書紀』は、その成立直後から近現代に至るまで、文学・宗教・思想・美術等、広範囲にわたって日本文化に大きな影響を与えてきた。最新の『新編日本古典文学全集本(小学館、1994-1998)』の刊行から四半世紀以上が経過した現在、この間の研究の進展を反映した新たな注釈を刊行することにより、文学、歴史、思想等広い関連領域における研究の基盤となるテキストを提供する。また、全編に現代語訳を付すことで、一般の読者にも『日本書紀』へのアクセスを容易ならしめることにつとめた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to prepare and publish a new annotation of the "Nihon-shoki" based on the latest scholarly findings through the collaboration of scholars specializing in the fields of Japanese Ancient literature, comparative literature, and history. The first volume of the three-volume project was completed and published during the period of this study. Based on the results of the annotation process, we, the project members, have presented our research at national and international conferences and published articles.

研究分野：上代文学

キーワード：日本書紀 注釈 上代文学

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

古代国家の起源と歴史を語る『日本書紀』は、西暦 720 年の成立直後から近現代に至るまで、文学・宗教・思想・美術等、広範囲にわたって日本文化に大きな影響を与えてきた古典の中の古典である。しかし、現在の標準的な注釈書である日本古典文学大系本（岩波書店、1965-1967）の刊行から五十年以上、最新の新編日本古典文学全集本（小学館、1994-1998）の刊行からも二十年以上が経過し、過去の研究の不足を補い最新の知見を反映した新たな注釈の完成が急務となっている。また、従来の研究では『日本書紀』を古代史や国語学史上の事実を解明するための資料として見ることに比重が置かれることが多く、『日本書紀』というテキストそのものの作品論的理解はなお果たされていないと言わざるを得ない。

### 2. 研究の目的

以上のような現状を踏まえ、本研究では、文学・歴史学・訓詁学を専門とする研究者の協働により、総合的な立場から『日本書紀』全体の作品論的理解を追求すると同時に、細部にわたって一貫した読みに基づく注釈を作成し、最終的にその成果を整理本文および訳読を付した注釈書として刊行することで、これからの『日本書紀』研究の基礎となるテキストを提供し、また社会一般に還元することを目指す。

### 3. 研究の方法

まず、テキストについて、底本として用いる寛文版本に付された古訓は、卜部家の『日本書紀』学の継承の中で付されてきたものであり、必ずしも上代の訓読に遡るものとは限らないが、歴史を通じた『日本書紀』研究を通じて生み出されてきた理解を反映している。これも『日本書紀』の伝来してきた姿を示す重要な情報であり、テキストの一部であるという考えから、本研究では、寛文版本をもとに古訓も含めて活字化した整理本文を作成する。また、上代に行われたであろう訓読を再現するには、どのような方法に拠ろうと恣意的な要素を排除し得ないことに鑑み、訓読文を排し、原文のダイレクトな理解の補助としての現代語訳を作成する。これらは、従来からの『日本書紀』注釈にもない本研究独自の方針である。

本文に付す注解の作成は、研究代表者である金沢が上代文学研究の立場から、全体の作品論的理解の基盤となる読解を総合的に担当し、研究分担者の三上は主として古代史・対朝鮮関係史に関わる歴史的事項を担当し、福田は訓詁学・日中比較文学研究の分野に関わる事項を担当する。加えて、『日本書紀』『古事記』をはじめとする上代文学研究およびその研究史・享受史の分野で多くの業績を挙げてきた神野志隆光氏（東京大学名誉教授）を研究協力者に迎え、注釈方針の策定から実際の注解・テキスト作成作業にわたる全体的な協力を仰ぎつつ作業を進める。中心となるメンバーをあえて絞り込み、研究代表者を全体のとりまとめ役として置くことで、部分部分で齟齬が生じる事態を防ぎ、一貫した注釈を作成する体制を確保する。一方、必要に応じて個別の専門研究者に相談・知識の提供を求め、最新の知見を取り入れたものとする。

以上の作業の成果を、最終的に注釈書としてまとめ刊行することで、今後、多分野にわたる新たな『日本書紀』研究が生み出されてゆくための基礎を提供する。

### 4. 研究成果

#### (1) 『日本書紀』注釈書の作成・刊行

上記の方針にのっとり、整理本文の作成、注解の作成と検討、現代語訳の作成等の作業を進めた。その成果は講談社より『新釈全訳日本書紀』として刊行することとなり、研究期間中に、全 3 巻予定中の上巻（巻一～巻七：神代紀～成務天皇紀）を刊行した。同巻には巻頭に 65 ページにわたる解説を付し、『日本書紀』全体の作品理解、古代におけるその意義、後世における伝来と注釈の歴史、本書の執筆方針とその特徴などについて論じた。本文には、底本とした寛文九年版本の翻刻とその現代語訳を掲載し、個別の注解と巻末の補注によってテキストの理解を示した（右図参照）。

また、同様に中巻（巻八～巻二十一：仲哀天皇紀～崇峻天皇紀）の原稿作成を進め、整理本文、注解、補注、現代語訳の作成を完了した。

なお、後継科研究費「『日本書紀』の作品論的研究 注解と発信（2024～2027 年度）」により、ひきつづき中巻の刊行と下巻注釈の作成・刊行を行う予定である。



(2) 研究成果の発表と公刊

注釈作成の過程で得られた個々の知見に関しては、研究代表者・研究分担者各自が、国内外の学会等において研究発表を行い、また雑誌等への投稿論文のかたちで公開した。

金沢は主として『日本書紀』の作品理解に関する論や、『日本書紀』から派生した注釈的テキストに関するもの、三上は木簡資料や百済との外交関係を中心とした歴史的事柄に関するもの、福田は『日本書紀』漢文本文の訓詁・読解に関するものについての研究発表・論文執筆を行った。

加えて、研究協力者の神野志も、本居宣長の『古事記』注釈と『日本書紀』との関わりについての論文を公刊した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 金沢英之	4. 巻 51-16
2. 論文標題 「『靈の真柱』の世界像 宣長、中庸から篤胤へ」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『現代思想』	6. 最初と最後の頁 264-274
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 なし
2. 論文標題 「古代陸奥・出羽の交通と信仰」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 笹生衛・菊地照夫編『古代の交通と神々の景観』（八木書店）	6. 最初と最後の頁 431-452
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 なし
2. 論文標題 「観音信仰、百済から日本へ - 『観世音応驗記』を出発点として - 」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 堀裕、三上喜孝、吉田歆編『東アジアの王宮・王都と仏教』（勉誠社）	6. 最初と最後の頁 143-165
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 なし
2. 論文標題 「百済と倭」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 佐藤信編『古代史講義【海外交流篇】』（平凡社）	6. 最初と最後の頁 83-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福田 武史	4. 巻 71
2. 論文標題 「『日本書紀』の訓読がもたらしたもの」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『和漢比較文学』	6. 最初と最後の頁 21-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金沢 英之	4. 巻 169
2. 論文標題 『聖徳太子十七憲章并序註』について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 北海道大学文学研究院紀要	6. 最初と最後の頁 67～97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14943/bfhhs.169.r67	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福田 武史	4. 巻 99-11
2. 論文標題 『日本書紀』古訓点描	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 109～117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金沢英之	4. 巻 98-7
2. 論文標題 『日本書紀』仁徳天皇と磐之媛皇后の問答歌をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 3-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福田武史	4. 巻 53-3・4
2. 論文標題 神田喜一郎『日本書紀古訓攷証』初版・改訂版の研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌	6. 最初と最後の頁 39-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金沢英之	4. 巻 69-5
2. 論文標題 『書紀集解』のひらくもの	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 12-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金沢英之	4. 巻 60
2. 論文標題 神功皇后紀をめぐる内外のコンテキスト	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古代文学	6. 最初と最後の頁 15-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 24
2. 論文標題 日本出土の古代木簡 古代地域社会における農業経営と仏教活動	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 木簡と文字	6. 最初と最後の頁 123-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 25
2. 論文標題 古代日本論語木簡の特質 韓半島出土論語木簡の比較を通して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 木簡と文字	6. 最初と最後の頁 173-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 224
2. 論文標題 韓国出土の文書木簡 ~ 「牒」木簡と「前白」木簡を中心に ~	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 149-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神野志隆光	4. 巻 37
2. 論文標題 『古事記伝』と「書紀」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鈴屋学会報	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 三上喜孝
2. 発表標題 「日本古代の角柱状（棒状、杖状）木簡の意義」
3. 学会等名 第二屆中日韓出土簡牘研究國際論壇（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 三上喜孝
2. 発表標題 「韓日古代「龍王」銘木簡再考」
3. 学会等名 韓国・国立慶北大学人文学術院HK+事業団主催第6回国際学術大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 福田武史
2. 発表標題 『日本書紀』の訓読がもたらしたもの
3. 学会等名 和漢比較文学会第41回大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 金沢英之
2. 発表標題 『日本書紀』の引書注をめぐって--巻九神功皇后紀を中心に
3. 学会等名 古代文学会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三上喜孝
2. 発表標題 日韓の木簡からみた古代東アジアの医薬文化
3. 学会等名 韓国・慶北大学校人文学術院HK+事業団 第1回国際学術大会「古代東アジア文字資料研究の現在と未来- 韓国・中国・日本出土木簡資料を中心に -」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三上喜孝
2. 発表標題 古代日本における論語木簡の特質 -韓国出土の論語木簡との比較から-
3. 学会等名 韓国・慶北大学校HK+事業団、韓国木簡学会主催国際学術大会「東アジア論語の伝播と桂陽山城」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三上喜孝
2. 発表標題 「百済と新羅の都城の考古学的研究」に対する討論文
3. 学会等名 東北学院大学アジア流域文化研究所・中国社会科学院考古研究所主催オンライン国際シンポジウム「中国都城考古の最前線 1 漢魏洛陽城・ギョウ城の考古最新知見および日韓古代都城の発掘と研究」
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 神野志隆光・金沢英之・福田武史・三上喜孝	4. 発行年 2021年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 597
3. 書名 新釈全訳 日本書紀 上巻	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	三上 喜孝  (Mikami Yoshitaka)  (10331290)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・教授    (62501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	福田 武史  (Fukuda Takeshi)  (20752075)	武蔵大学・人文学部・教授    (32677)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協 力 者	神野志 隆光  (Konoshi Takamitsu)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関